

事業計画書

現在の地域課題に対する本事業での実施内容	・熱気球で積極的に活動するメンバーの高齢化、BFの中心的な常任委員の高齢化 ・熱気球のノウハウ、技術がドキュメント化されていない ・熱気球教室を通して気球ファンを増やす →過去の活動30年とノウハウ、技術のドキュメント化と教育の実施、熱気球教室、関係個所への配布等を通して熱気球のファンを増やし「バルーンのまち佐久」をより一層進め、観光政策に一層寄与する。
対象となる人・範囲	狭義としての対象者は、クラブ員、ボランティアスタッフなど熱気球に関わるすべての方々。 広義としての対象者は、熱気球ファン、技術的に育った人との繋がりから、熱気球に興味をもったりBFに来場された方々への対応を通して街の活性化を図っていく。
事業の効果、達成目標 （達成目標はできる限り数値で示すこと） 記載ポイント 事業の ・公益性	・BFの来場者は、コロナ禍で3年前は中止、一昨年は無観客、昨年は有観客、イベントは中止で10万人だったが、過去の来場者30万人を超える40万人に向けて基礎をしっかりと作る。 ・現状パイロット13人だが60歳以上が半数。若手パイロットライセンス取得3名養成。 ・高齢者の熱気球のノウハウ、技術を失うことなくこれからの若い世代に引継いでいくために3部作のドキュメントの作成 →熱気球ガイドブックの作成と熱気球セミナーの実施（R6.2）1回 →熱気球教室用ドラフト版を利用した教室の開催4回、完成版利用1回（岸野・高瀬地区 区民向け）（R5.7～R6.3） →熱気球の30年の歴史及び未来に向けてのノウハウ等をドキュメント化 ・出前講座、教室、セミナー等実施による会員増強 R4 103件→R6 115件
詳細 （活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する） 記載ポイント 事業の ・独自性 ・発展性 ・実現可能性 ・団体の自立促進	長野県で唯一熱気球グランプリ大会を開催していることから熱気球のまちとして熱気球を通じて老若男女が協力しあい活動をしています。今後さらに「バルーンのまち佐久」をより一層推進するにあたり、ドキュメントの整備、若手パイロットの養成、熱気球ファンを増やし、熱気球教室などを通して子ども達への夢と希望を提供し、将来ふるさと思ふとき熱気球が浮かぶ街になるような活動に取り組みます。 ・有識者による実行委員会の立ち上げ（5月） ・「（仮）熱気球ガイドブック」の作成（気球活動について、係留の準備/実施、BFについて、熱気球の競技について・・・等）（32page、300部、R4.5～11） ・熱気球教室用のガイドブック（「（仮）熱気球ってどんなもの」）のフェーズ1でドラフト版（5月～7月作成）のコピーを利用して教室を開催し参加者の意見、質疑応答をとおしてガイドブックに取り込む。（12page、5,000部、R5.11～12作成） （佐久市観光協会の係留に併せて教室の実施、野沢中学校 社会体験班への教室実施、高瀬・岸野地区住民への係留・教室の実施） ・BF及びクラブの過去30年間の散在した資料を当時関わった多くの方々を巻き込んで30年の歴史とBF運営の過去からのノウハウのドキュメント「（仮）佐久の熱気球30年の歴史と未来に向けて」（120page、300部、R5.6～12作成） （市内図書館、小中高校の図書館、公民館、クラブ会員、市議会・県議会議員等に配布。配布と同時に出前講座実施の案内状を配布。新規クラブ員・BFボランティアの参加を期待） ・成果物を使つての講座の開催や活動体験を通して、未来に向けての気球ファン、クラブ員、ボランティアの増を目指し、市の観光政策に協力し貢献する組織及び人材の確保、育成。
重点テーマに該当する理由	※該当する場合のみ記入
翌年度以降の取組	・BFの熱気球教室にて作成冊子を配布、利用。 ・BF会場にてアンケートを実施し回答者にはガイドブックを配布、来場者の意見を収集しガイドブックの見直しを行う。 ・出前講座の継続実施